



2 セットアップ

CacheServerのセットアップの方法について説明します。

- 設置と接続(→24ページ) CacheServerの設置にふさわしい場所や背面のコネクタへの接続について説明しています。
- ソフトウェアのセットアップ(→43ページ) CacheServerを設定するための初期設定情報ディスクの作成からCacheServerをお使いになるために必要となる初期設定情報のインポートの方法、CacheServerの管理ソフトウェアの設定方法について説明します。

設置と接続

CacheServerの設置と接続について説明します。

設 置

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外の場所に設置しない
- フロントベゼルに手をかけて運ばない(タワーモデル)

設置条件

CacheServerの設置にふさわしい場所は次のとおりです。

- サーバの動作時に室内温度10℃～35℃、湿度20%～80%(ただし結露しないこと)の範囲を保てる場所(室内温度15℃～25℃の範囲を保てる場所での使用をお勧めします。)
- AC100V、平行二極アース付きの壁付きコンセント
- 添付の電源コードが届く範囲にあるコンセント
- ほこりの少ない、きれいで整頓された部屋
- 床の上、または水平でじょうぶな机や台の上(タワーモデル)
- サーバの前後に150mm以上のスペースがとれる場所(タワーモデル)
- ラックを含む総重量に耐えうる床、または耐震工事を施された場所(ラックマウントモデル)

設置にふさわしくない場所

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所に CacheServer を設置すると、誤動作の原因となります。

- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近くには設置しないでください。(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください。)

設置手順 CacheServer(L)(タワーモデル)

CacheServer の底面をしっかりと持って、設置場所にゆっくりと静かに置いてください。

 **重要** 装置前面のフロントベゼルを持って、持ち上げないでください。フロントベゼルが外れて落下し、装置を破損してしまいます。

設置手順 CacheServer(LR)(ラックマウントモデル)

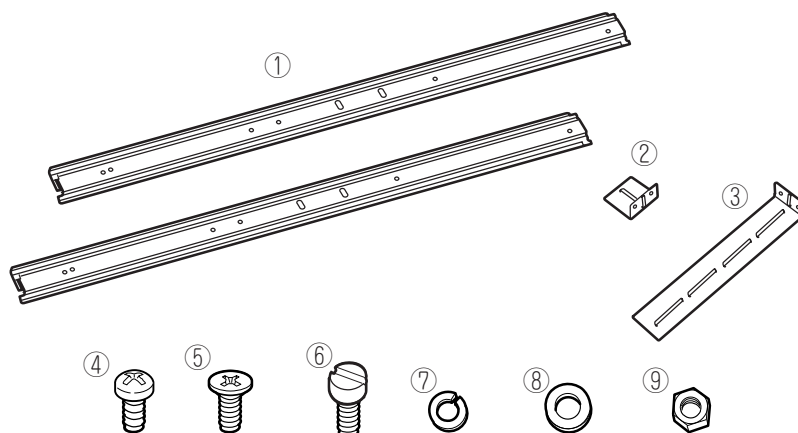
CacheServer をラックに取り付けます(取り外し手順についても説明しています)。

 警告	
	装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。 ● 規格外のラックで使用しない ● 指定以外の場所で使用しない

 注意	
   	装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。 ● 一人で持ち上げない ● 指を挟まない

取り付け部品の確認

ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。



項番	名称	数量	備考
①	レールアセンブリ	2	
②	フロントブラケット	2	短めのブラケット
③	リアブラケット	2	長めのブラケット
④	ネジA	10	なべ頭ネジ
⑤	ネジB	10	丸皿頭ネジ
⑥	ネジC	6	M5ネジ
⑦	ロックワッシャ	10	⑤の固定用
⑧	ワッシャ	10	⑤の固定用
⑨	ナット	10	⑤の固定用

必要な工具

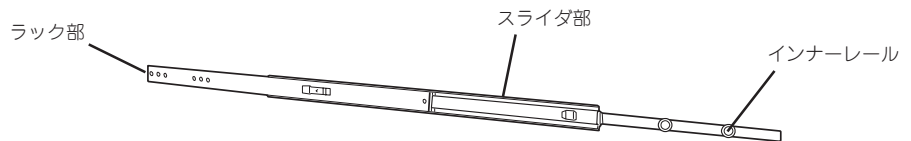
ラックへ取り付けるために必要な工具はプラスドライバとマイナスドライバ、六角レンチです。

取り付け手順

次の手順で装置をラックへ取り付けます。

● インナーレールの取り外し

1. レールアセンブリのラック部をスライダ部からロックされるまで引き出す。
2. インナーレールをスライダ部からロックされるまで引き出し、ロックアームを押してロックを解除してからインナーレールを取り外す。
3. もう一方のレールブラケットに取り付けられているインナーレールを手順1～2と同じ手順で取り外す。



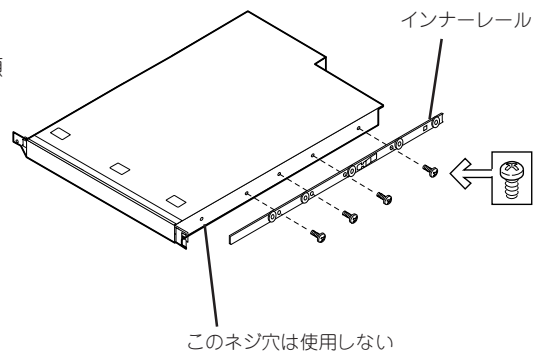
● インナーレールの取り付け

1. インナーレールのネジ穴とCacheServer側面のネジ穴を合わせる。



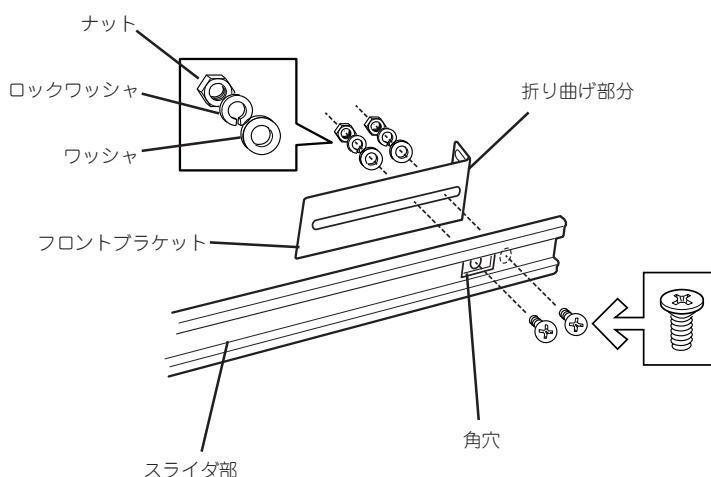
CacheServerの前面側に最も近い位置にあるネジ穴は使用しません。

2. インナーレールをネジA（4本）でCacheServerに固定する。
3. もう一方の側面にインナーレールを手順1～2と同じ手順で取り付ける。



● フロントブラケットの取り付け

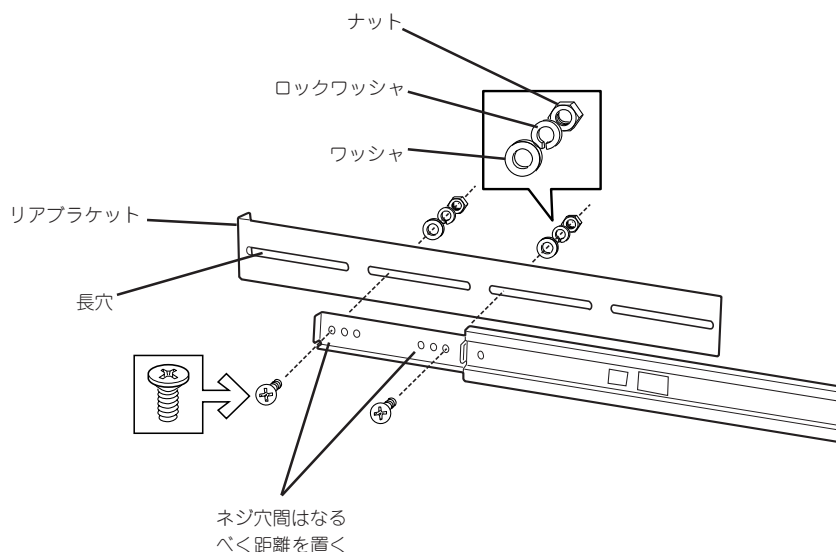
1. レールアセンブリのスライダ部にある角穴からネジ穴が見えるまでラック部をスライドさせる。
2. フロントブラケットの折り曲げ部分をレールの先端に合わせてネジB(2本)で固定する。
ネジBの受けにはワッシャ、ロックワッシャ、ナットを使用します。受けの順番を間違えないよう注意してください。
3. もう一方のレールアセンブリにフロントブラケットを手順1～2と同じ手順で取り付ける。



● リアブラケットの取り付け

リアブラケットはラックの奥行きに合わせて長さを調節しながら取り付けます。

1. レールアセンブリをラック前後の支柱に突き当てて、リアブラケットにある4つ長穴のうち、どの穴を使用するかを確認する。
レールブラケットをラックの支柱に突き当て方は、30ページに示すように実際に取り付けるときと同じようにしてください。
2. リアブラケットをネジB(2本)で仮止めする。
ネジBの受けにはワッシャ、ロックワッシャ、ナットを使用します。受けの順番を間違えないよう注意してください。
レールアセンブリへの負荷を分散させるために2つのネジ止め位置をなるべく離すようにしてください。
この後の手順でラックの奥行きとレールアセンブリ(リアブラケットを含む)の長さを調節します。リアブラケットがスライドしやすいように軽くネジ止めしてください。



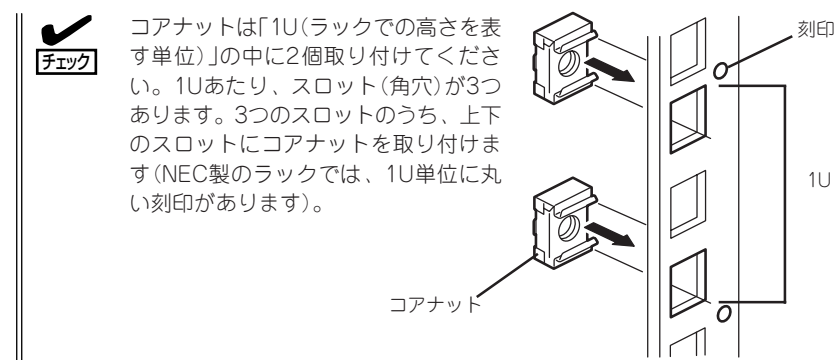
3. もう一度ラックの前後に突き当てて、リアブラケットをスライドさせながら固定する位置を調整する。

調整後はリアブラケットがずれないようしっかりと押さえてください(マーカーなどで固定位置に印を付けておくと便利です)。

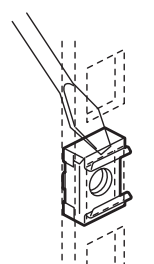
4. 仮止めしたネジをしっかりと締めてリアブラケットを固定する。
5. もう一方のレールアセンブリにリアブラケットを手順1~4と同じ手順で取り付ける。

● コアナットの取り付け

レールアセンブリを固定する位置にラックに添付のコアナットを取り付けます。コアナットはラックの前面(左右とも)に各2個、背面(左右とも)に各2個の合計8個取り付けます。



コアナットはラックの内側から取り付けます。ラックの前面に取り付けたコアナットは、上側がCacheServerのセットスクリューの受けとなります。下側はフロントブラケットの受けとなります。背面のコアナットはリアブラケットの受けとして使われます。コアナットは下側のクリップをラックの四角穴に引っかけてからマイナスドライバなどで上側のクリップを穴に差し込みます。



● レールアセンブリの取り付け

1. レールアセンブリを支えながら、フロントブラケットをネジC(1本)でラックに固定する。
2. リアブラケットをネジC(2本)でラックに固定する。



チェック

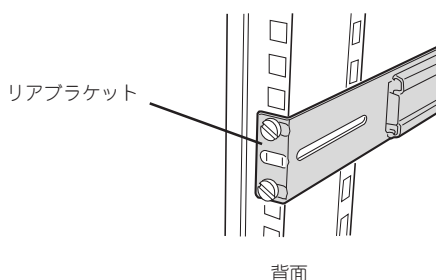
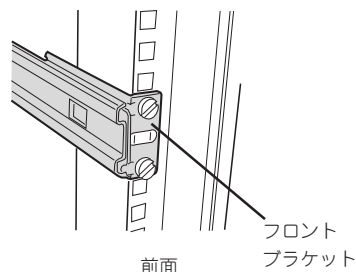
- レールアセンブリが水平に取り付けられていることを確認してください。
- フロントブラケットやリアブラケットとラックの支柱の間にすきまがないことを確認してください。すきまがあるときはいったんレールアセンブリを取り外してリアブラケットの固定位置を調整してください(「リアブラケットの取り付け」を参照)。

3. もう一方のレールアセンブリを手順1～2と同じ手順で取り付ける。



チェック

すでに取り付けているレールアセンブリと同じ高さに取り付けていることを確認してください。

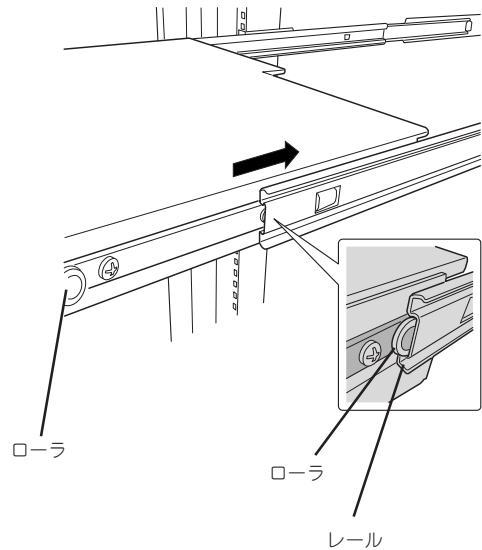


● CacheServerの取り付け

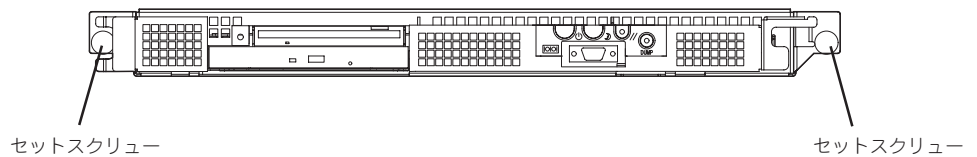
1. CacheServerの前面が手前になるように持つ。

2. CacheServer側面にあるインナーレールのローラがレールブラケットにあるレールにはさまれるようにしながらラックへ押し込む。

すべてのローラがレール内に差し込まれるまでゆっくりと静かにラックへ押し込んでください。



3. CacheServerの左右にあるセットスクリューでラックに固定する。



4. フロントベゼルを取り付ける(13ページ参照)。

以上で完了です。

取り外し手順

次の手順で装置をラックから取り外します。

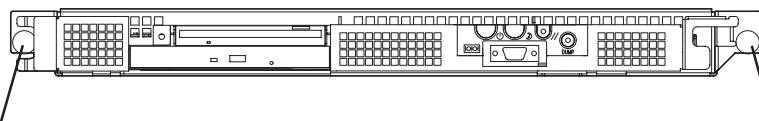
⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 一人で持ち上げない
- 指を挟まない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 動作中に装置をラックから引き出さない

1. CacheServerの電源がOFFになっていることを確認してから、CacheServerに接続している電源コードやインタフェースケーブルをすべて取り外す。
2. フロントベゼルを取り外す。
3. CacheServerの左右にあるセットスクリューをゆるめる。



セットスクリュー

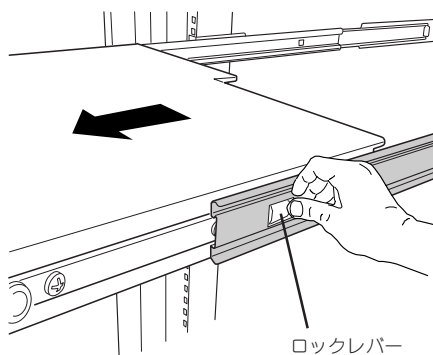
セットスクリュー

4. CacheServerをゆっくりと静かにラックから引き出す。
引き出している途中でロックされます。

5. 左右のロックレバーを押してロックを解除しながらゆっくりとラックから引き出す。

6. CacheServerをしっかりと持ってラックから取り外す。

ラックの機構部品も取り外す場合は、「取り付け手順」を参照して取り外してください。



ロックレバー

設置手順 CacheServer(MR)/(HR)(ラックマウントモデル)

CacheServerをラックに取り付けます(取り外し手順についても説明しています)。
別売の内蔵型オプションを購入している場合は、ラックに取り付ける前に取り付けてください。



警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 規格外のラックで使用しない
- 指定以外の場所に設置しない



注意

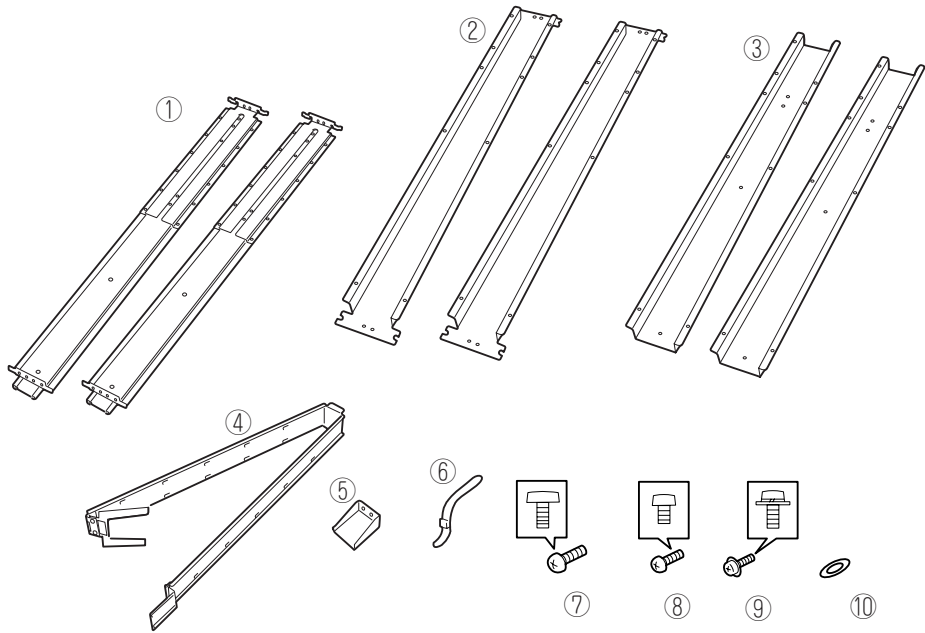


装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 一人で持ち上げない
- 指を挟まない

取り付け部品の確認

ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。



項番	名称	数量	備考
①	ガイドレール(U)アセンブリ	2	インナーレールは装置に取り付け済み
②	ラックブラケット	2	N8540-28/29/38専用
③	レールブラケット	2	N8540-28/29/38専用
④	アームアセンブリ(SA)	1	
⑤	アームブラケット	1	
⑥	ケーブルタイ	20	長さ: 25cm
⑦	ネジA	8	ミリネジ
⑧	ネジB	4	インチねじ
⑨	ネジC	20	ワッシャ付き N8540-28/29/38専用
⑩	ワッシャ	8	⑦用のワッシャ

必要な工具

ラックへ取り付けるために必要な工具はプラスドライバのみです。

取り付け手順 ～NEC製ラック/他社製ラック～

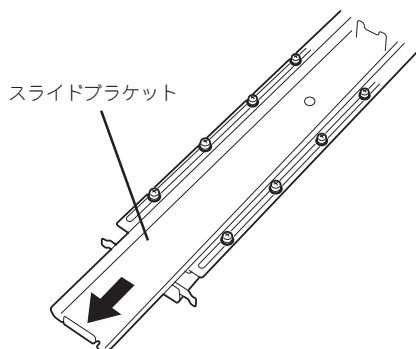
本装置はNEC製、および他社製のラックへ取り付けることができます。次の手順で装置をラックへ取り付けます。



NECのラック(N8540-28/29/38)への取り付けについては、この後の「取り付け手順～N8540-28/29/38用～」をご覧ください。モデルの識別はラックに貼り付けられている装置銘板で確認できます。

1. ガイドレール(U)アセンブリのスライドブラケットを固定しているネジ8本をゆるめる。

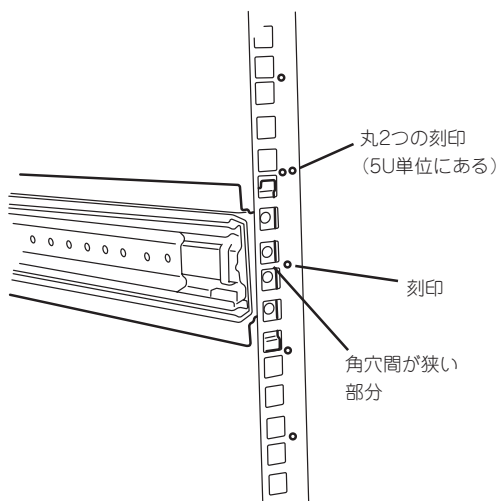
ラックの奥行き(前後の支柱間)にガイドレール(U)アセンブリの長さを合わせるためです。ネジをゆるめるとスライドブラケットが前後にスライドします。



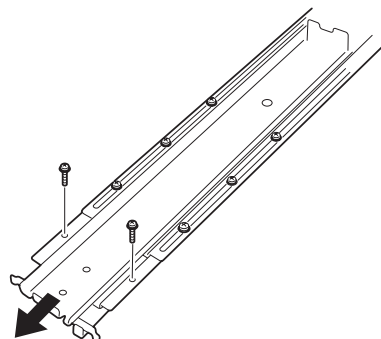
2. ガイドレール(U)アセンブリをラックのフレームに位置決めする。



- ガイドレール(U)アセンブリの取り付け方向を確認してください。
- ラックの支柱にはネジ止め用の角穴があります。前後の角穴の間隔が狭い部分がガイドレール(U)アセンブリの中心に位置するように位置決めしてください。NEC製のラックでは、1U単位に丸い刻印があります。刻印がガイドレール(U)アセンブリの中心に位置するように位置決めしてください。



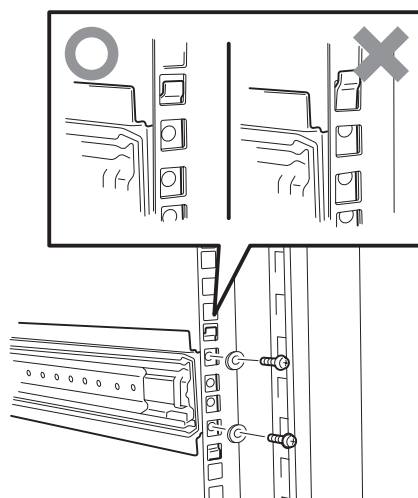
ラックの奥行き分の長さが足りない時は、先端にあるネジ2本を外してスライドブラケット延ばしてください。



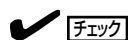
3. ガイドレール(U)アセンブリをネジA(2本、前後で4本)とワッシャ2個(前後で4個)で固定する。



- ガイドレール(U)アセンブリの先端にあるフレーム先端がラックの角穴のフレームに突き当たっている状態で、レールのネジ穴(4個)が角穴から確実に見えていることを確認してください。
- レールが水平に位置決めされていることを確認してください。

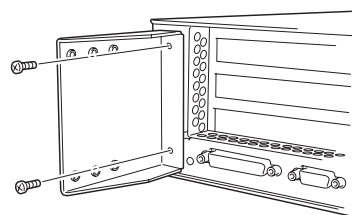


4. 手順1でゆるめたネジを締めてスライドブラケットを固定する。
5. もう一方のガイドレール(U)アセンブリを手順1~4と同様の手順でラックに取り付ける。

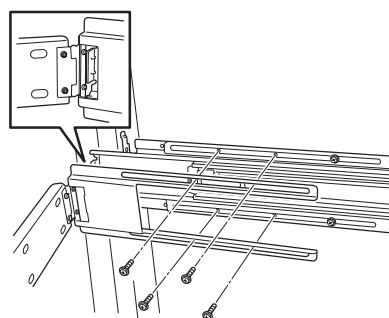


すでに取り付けられているガイドレール(U)アセンブリと同じ高さに取り付けていることを確認してください。

6. ネジB(2本)でアームブラケットを装置背面に取り付ける。



7. ラック背面から見て左側のガイドレール(U)アセンブリにあるレールをラック前面に少しスライドさせる。
8. アームアセンブリ(SA)の端をガイドレール(U)アセンブリに固定する。



上図のようにアームアセンブリ(SA)の継ぎ目の部分とガイドレール(U)アセンブリの先端を突き当てて、アームアセンブリ(SA)の取り付けに必要なネジをガイドレール(U)アセンブリからいったん取り外し、アームアセンブリ(SA)と共締めし直します。

9. 2人以上でExpressサーバをしっかりと持ってラックへ取り付ける。

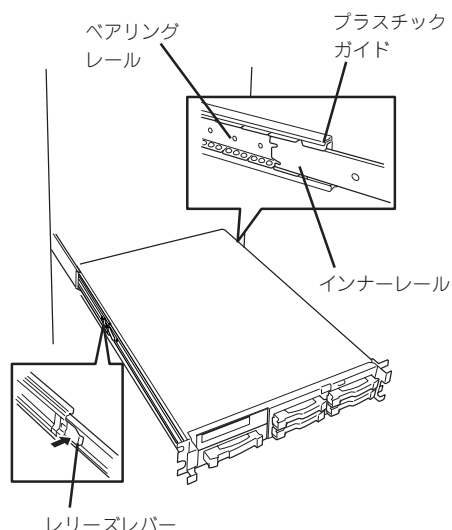
⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

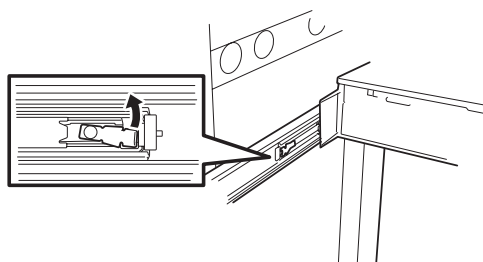
- 一人で持ち上げない
- 指を挟まない

CacheServer側面のインナーレールをラックに取り付けたレールに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。インナーレールの差し込み口でプラスチックガイドとベアリングレールに差し込むようにすると取り付けやすくなります。途中でCacheServerがロックされたら、側面にあるリリースレバー(左右にあります)を押しながらゆっくりと押し込みます。



✓ チェック

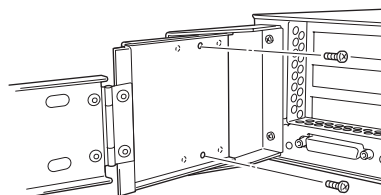
途中でロックされた場合は、レール中央部分にあるロックレバーの状態を確認してください。ロックされている場合は、レバーを水平にしてロックを解除してから差し込んでください。



初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがあります。強く押し込んでください。

10. アームアセンブリ(SA)のもう一方の端をアームブラケットにネジB(2本)で固定する。

アームブラケットの6個のネジ穴のうち中央の2個のネジ穴に固定します。

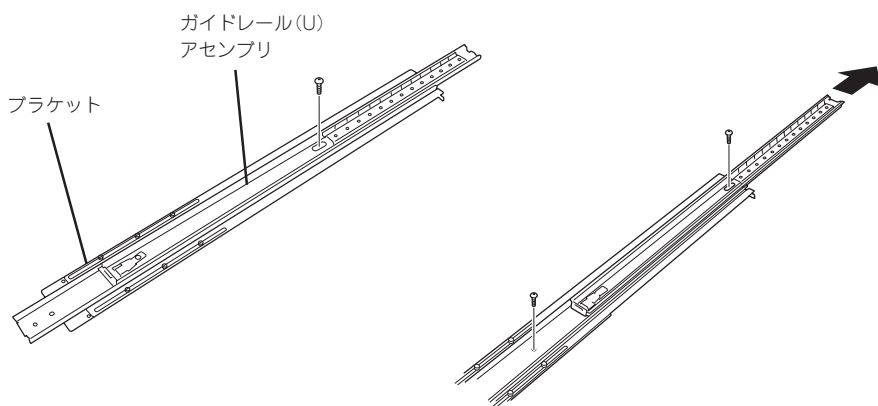


11. CacheServerを何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。
12. 前面の両側にあるセットスクリューでCacheServerをラックに固定する。
13. フロントベゼルを取り付ける(13ページ参照)。

取り付け手順 ～N8540-28/29/38用～

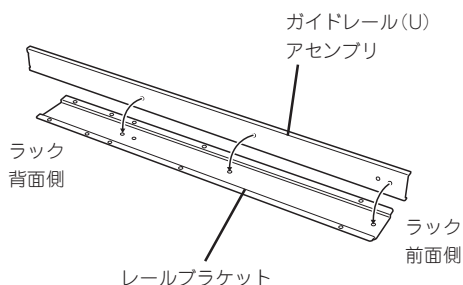
N8540-28/29/38のラックへ取り付けるときは、次の手順に従ってください。

1. ガイドレール(U)アセンブリからブラケットを取り外す。
レールをスライドさせてネジ(3本)を取り外してください。



2. ガイドレール(U)アセンブリをレールブラケットに取り付ける。

ネジ穴(3カ所)を合わせてからレールブラケットの上にガイドレール(U)アセンブリを置きます。手順2と同様の方法でレールをスライドさせてネジ(手順2で取り外した3本)で固定します。



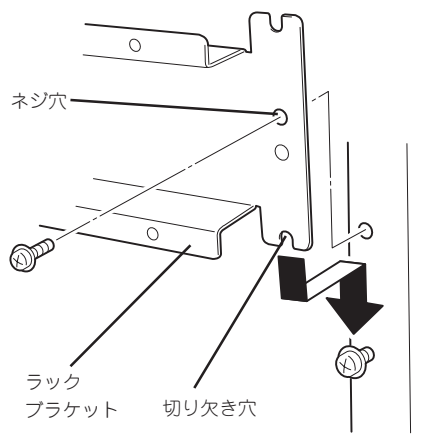
3. ラックブラケットを固定する。

ラックブラケットの下側を固定するネジCを仮止めし(前後とも)、ラックブラケットをネジの上に乗せてから固定します。



チェック

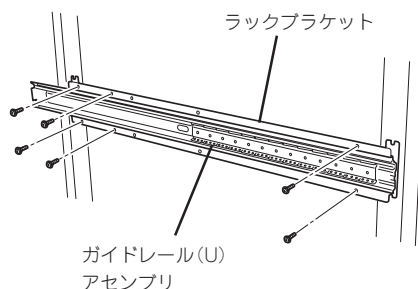
- ラックブラケットは上側のネジ穴と下側の切り欠き穴で固定されます。それぞれの穴とラックのネジ穴が合っていることを確認してください。
- レールが水平に位置決めされていることを確認してください。



- ラックブラケットにガイドレール(U)アセンブリをネジC(6本)で固定する。
- もう一方のラックブラケットにガイドレール(U)アセンブリを手順1~4と同様の手順でラックに取り付ける。

✓ チェック

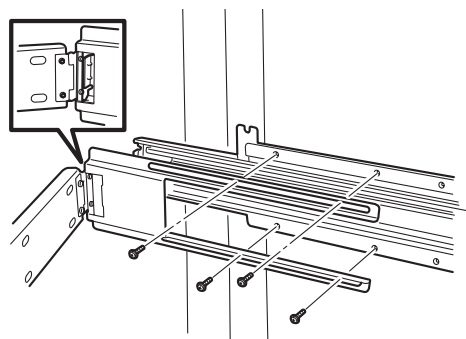
すでに取り付けているガイドレール(U)アセンブリと同じ高さに取り付けていることを確認してください。



- 「取り付け手順 〜NEC製ラック/他社製ラック〜」の手順6~13を行う。

🔑 重要

ただし、手順8のアームアセンブリ(SA)の取り付けでは、右図のようにアームアセンブリ(SA)の継ぎ目の部分とガイドレール(U)アセンブリの先端を突き当てて、アームアセンブリ(SA)の取り付けに必要なネジをガイドレール(U)アセンブリからいったん取り外し、アームアセンブリ(SA)と共締めし直します。



以上で完了です。

取り外し手順

ラックからの取り出し作業は必ず複数名で行ってください。

⚠ 注意

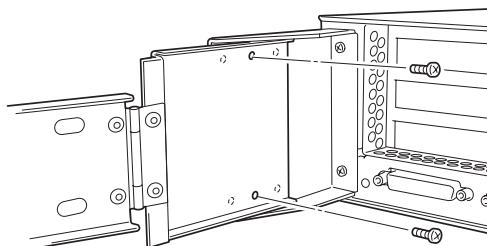


装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

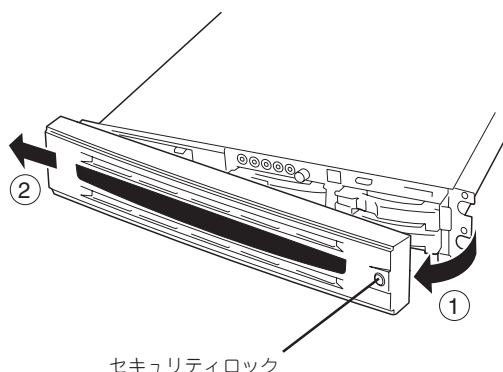
- 一人で持ち上げない
- 指を挟まない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 動作中に装置をラックから引き出さない

- CacheServerの電源がOFFになっていることを確認してから、CacheServerに接続している電源コードやインターフェースケーブルをすべて取り外す。

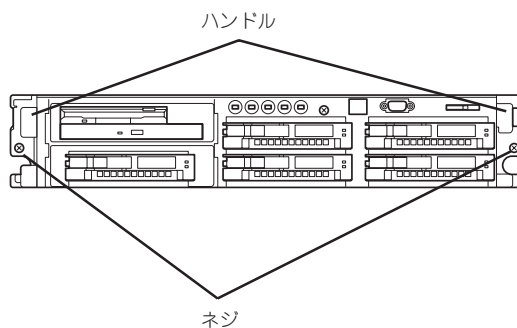
2. ケーブルアームを固定しているネジ2本を外し、ケーブルアームをCacheServerから取り外す。



3. セキュリティロックを解除してフロントベゼルを取り外す。



4. 前面のネジ2本をゆるめる。

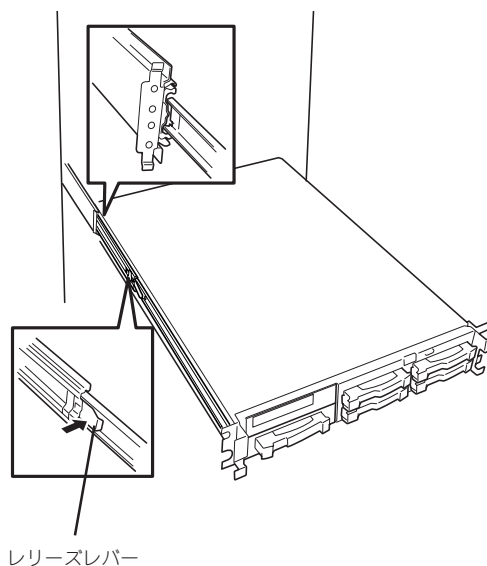


5. ハンドルを持ってゆっくりと静かにラックから引き出す。
「カチッ」と音がしてラッチされます。
6. 左右のリリースレバーを押してラッチを解除しながらゆっくりとラックから引き出す。

重要

複数名で装置の底面を支えながらゆっくりと引き出してください。

ラックの機構部品も取り外す場合は、「取り付け手順」を参照して取り外してください。



接 続

CacheServerの背面にケーブルを接続します。

 警告	
	装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。 ● めれた手で電源プラグを持たない ● アース線をガス管につながらない

 注意	
	装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。 ● 指定以外のコンセントに差し込まない ● たこ足配線にしない ● 中途半端に差し込まない ● 指定以外の電源コードを使わない ● プラグを抜かずにインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない ● 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

接続するケーブルは、ネットワークケーブルと添付の電源コードだけです。それ以外のコネクタには接続する必要はありません。

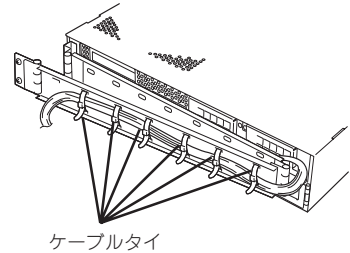
まずはじめにネットワークケーブルを背面のLANボード0コネクタに接続します。複数のネットワークケーブルを接続する場合は、LANボード番号の小さい順に接続してください。コネクタの位置やボード番号については「各部の名称と機能(7ページ)」を参照してください。

ネットワークケーブルを接続したら、添付の電源コードを接続します。
以上で接続は完了です。



重要

- CacheServer、および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- CacheServer(LR)をお使いの場合
ケーブルがラックのドアや側面のガイドレールなどに当たらないようフォーミングしてください。
- CacheServer(MR)/(HR)をお使いの場合
 - － 電源コードやネットワークケーブルをケーブルタイで固定してください。
 - － ケーブルがラックのドアや側面のガイドレールなどに当たらないようフォーミングしてください。
 - － 電源コードは装置のACインレット部分で少したるませる程度にフォーミングしてください。装置を引き出したときに電源コードが抜けるのを防ぐためです。
 - － 電源コードのプラグ部分が圧迫されないようにしてください。



ヒント

シリアルポート2コネクタ (COM2) は、CacheServerの保守をするときに管理PC (コンソール) と接続します。通常の運用では接続する必要はありません。

ソフトウェアのセットアップ

CacheServerの設定は専用の初期設定ツールを使います。初期設定ツールはCacheServerとネットワークで接続されたWindowsマシンを使って操作します。

セットアップの準備

CacheServerを設定するにあたって、CacheServer内蔵のLANボード(LANコントローラ)に割り当てる次の情報と、1.44MBフォーマット済みの3.5インチフロッピーディスクを用意してください。

- IPアドレス
- IPアドレス用のサブネットマスク
- ドメインネームシステム(DNS)サーバ
- デフォルトゲートウェイ

設定ディスクの作成

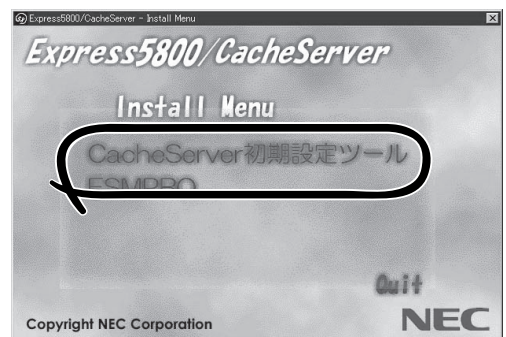
Windows 95/98、またはWindows NT 4.0が動作するマシンで、準備したフロッピーディスクにCacheServerの設定情報を記録します。

設定情報の記録には、添付の「CacheServer保守・管理ツール用CD-ROM」を使用します。

1. Windows 95/98、またはWindows NT 4.0が動作するマシンのCD-ROMドライブにCacheServer保守・管理ツールCD-ROMをセットする。
2. 準備したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする。
保守・管理ツールが自動的に起動します。

3. 「CacheServer初期設定ツール」を選択する。

「CacheServer初期設定ツール」ダイアログボックスを表示します。



4. [LANボード0]にCacheServerの内蔵LANボードのIPアドレス、およびサブネットマスクを設定する。
5. [DNS]にドメイン名、およびDNSサーバのIPアドレスを設定する。

6. [デフォルトゲートウェイ]にゲートウェイアドレスを設定する。

すべての項目の設定が終了すると、「出力」ボタンが有効になります。



チェック

設定内容はフロッピーディスクに書き出します。出力先ディレクトリがフロッピーディスクドライブとなっていることを確認してください。

7. [出力]ボタンをクリックする。

フロッピーディスクへの書き込みが始まります。正常にフロッピーディスクに書き込まれたら、本ツールは終了します。

8. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出す。

以上で初期設定が登録されたCacheServerの設定ディスクが作成されました。

設定のインポートとチェック

CacheServerの設定ディスクの内容をCacheServerにインポートします。

1. CacheServerの内蔵LANボードのコネクタにLANケーブルを接続して、ネットワーク環境として使用するHUBに接続する。
2. CacheServerの電源をONにする。
CacheServerが起動を開始します。
3. 最初のピーブ音がなったら、設定ディスクをCacheServerのフロッピーディスクドライブにセットする。



チェック

CacheServerの起動は、起動時のピーブ音で確認します。ピーブ音のパターン(ピーブ音を2回長く4回短く)を4回繰り返したら、CacheServerは正常に起動したことになります。

CacheServerの起動後、設定ディスクから環境データがインポートされます(約2分間)。設定ディスク内の環境データがCacheServerにインポートされるとフロッピーディスクのアクセスランプが完全に消灯します。

4. クライアントマシンでWebブラウザを起動する。



Webブラウザは以下のいずれかを使用してください。

- Netscape Navigator 4.07以上
- Netscape Communicator 4.5以上
- Internet Explorer 4.01以上

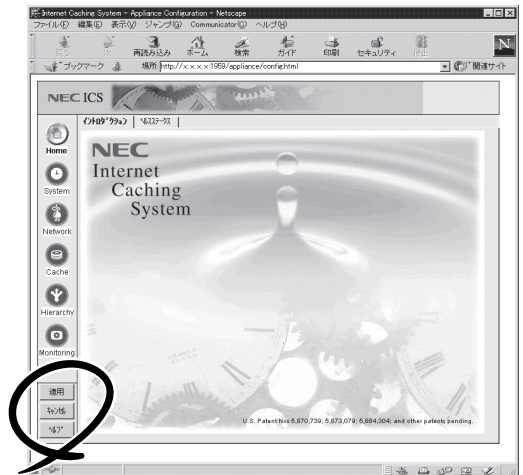
5. [アドレス] (または[場所]など)に「http://x.x.x.x:1959/appliance/config.html」を指定する。

「x.x.x.x」の部分はCacheServerのIPアドレスを入力します。

[Internet Caching System - Appliance Configuration]の画面が表示されます。

6. 必要事項を設定する。

設定する前に設定ディスクをCacheServerのフロッピーディスクドライブにセットしてください。詳細に関しては、[ヘルプ]ボタンをクリックすると表示されるオンラインマニュアルを参照してください。もし、画面が表示されなかった場合は、「トラブルシューティング (96ページ)」を参照してください。



7. すべての設定を行ったら、設定内容を反映させるために[適用]ボタンをクリックする。

以上で完了です。つづいてCacheServerにインストールされているESMPRO/ServerAgentのセットアップをします。



設定ディスクにはCacheServerの設定内容が保存されています。紛失しないように大切に保管してください。CacheServerの設定を変更する場合には設定を変更する前に設定ディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、設定を変更してください。

本機能に関してはConfigurationの[System]ボタン → 「インポート/エクスポート」タブをクリックしてください。詳細はオンラインマニュアルを参照してください。

ESMPRO/ServerAgentのセットアップ

ESMPRO/ServerAgentはCacheServerの監視用ソフトウェアです。このソフトウェアはCacheServer本体にインストールされています。ただし、お客様の環境に合わせてSNMP設定を行う必要があります。ここではSNMP設定の方法について説明します。

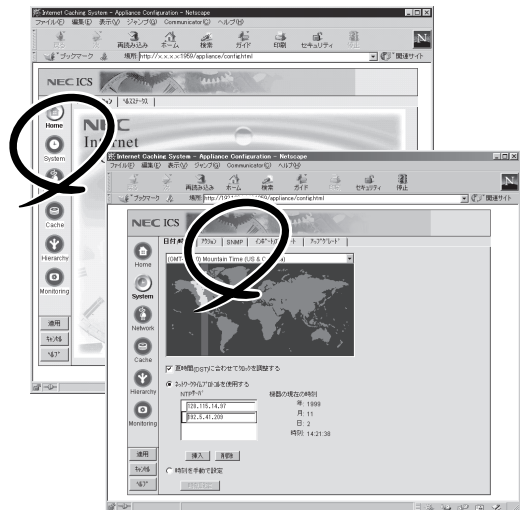
1. クライアントマシンでWebブラウザを起動する。
2. [アドレス] (または[場所]など) に「http://x.x.x.x:1959/appliance/config.html」を指定する。

「x.x.x.x」の部分はCacheServerのIPアドレスを入力します。

[Internet Caching System - Appliance Configuration]の画面が表示されます。

3. [System]ボタン-[snmp]タブの順にクリックする。

[snmp]シートが表示されます。



4. [snmp]シート内の項目を設定する。

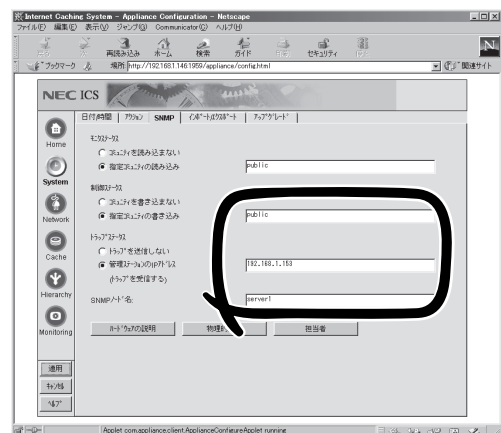
[制御ステータス]

「指定コミュニティの書き込み」をチェックし、コミュニティの指定をしてください。



ヒント

通常は [public] を指定してください。
この設定はESMPRO/ServerManagerからのしきい値などのセットに使用されます。



[トラップステータス]

「管理ステーションのIPアドレス」をチェックし、ESMPRO/ServerManagerがインストールされているマシンのIPアドレスを指定してください。

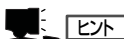
[SNMPノード名]

同一ネットワーク上で固有の名前を指定してください。

指定されたサーバ名はESMPRO/ServerManagerでサーバの自動発見時に使用されます。

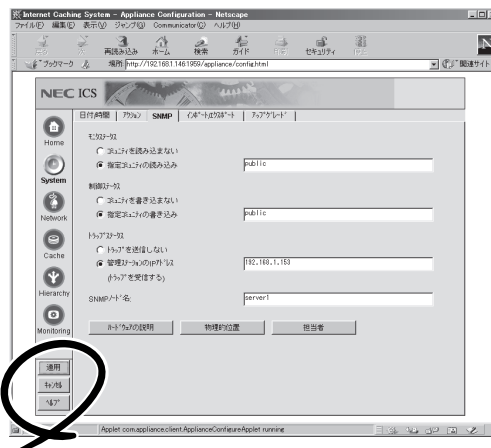
同一ネットワーク上に同じ名前がある場合は正常に発見されない場合があります。

5. 設定が完了したら[適用]ボタンをクリックする。
6. [トラップステータス]の[管理ステーション]のIPアドレスを変更した場合は、CacheServerを再起動する。



ヒント

[System]—[アクション]タブの順にクリックし、[アクション]シートにある[再起動]ボタンをクリックすると再起動します。



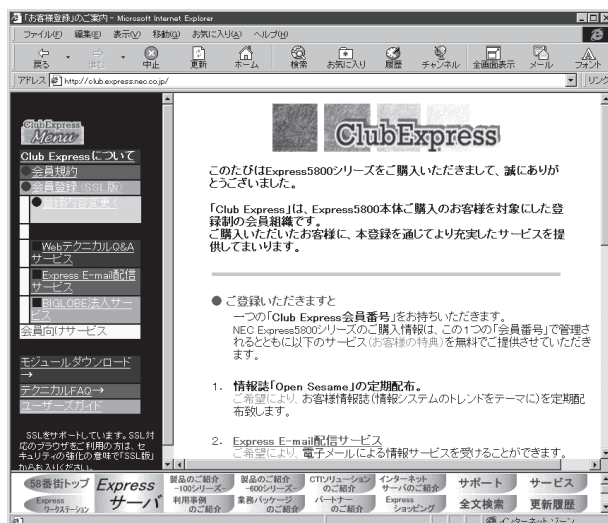
以上でCacheServerのソフトウェアの設定が完了しました。

ユーザー登録をしましょう！

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。是非、ご覧ください。

